

Teikyo School of Public Health

帝京大学大学院 公衆衛生学研究科

MPH

— 専門職学位課程 —

DrPH

— 博士後期課程 —



帝京大学
Teikyo University

50th
TEIKYO UNIVERSITY
歴史をしのぐ未来へ

研究科長からのメッセージ

Dean's Message

帝京大学大学院公衆衛生学研究科は、2011年4月に専門職学位課程として開設され、2015年3月には4期生が卒業しました。私は2013年4月から研究科長として就任しました山岡和枝と申します。

本研究科は、わが国で初となる独立組織の公衆衛生大学院であるとともに、国際基準で必須とされる5分野（「疫学」、「生物統計学」、「社会行動科学」、「保健行政・医療管理学」、「産業環境保健学」）のカリキュラムを充実させてまいりました。また、毎年1月には、ハーバード大学を中心とした5名の海外客員教授陣による5分野の特別講義（各8コマ）も実施してきました。この特別講義には米国を始めタイ、フィリピン、中国などアジア諸国を含めた各国から受講生が参加し、グローバルな環境の中で授業が展開されています。各分野の海外最新事情や最先端の知識に触れることができるこの特別講義は、ハーバード大学との学術提携（帝京—ハーバードプログラム）の一環として行われております。

本研究科専門職学位課程は、公衆衛生の専門知識・技能と公衆衛生マインドを身に付け、公衆衛生の現場で発生する諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決を実践できる専門職（Professional）を養成する専門職大学院です。そのため学生の指導においては課題研究を最も重視しています。課題研究は講義や演習で培った知識・技能を実践の場に役立つ能力の集大成とすることを目的としており、科学的・学術的研究と実践教育との融合を図ったカリキュラムです。

この専門職学位課程を高度化し、そこで養成した専門職の活動を統括指導する上級管理者・上級指導者としての人材養成を目的として、本研究科に博士後期課程を2014年4月から新設しました。本博士後期課程は、真理探究・学術深化に特化した能力を求める医学研究科（社会医学専攻）等の従来の大学院博士課程とは目的を異にしており、ある意味日本で初めて、世界でも最先端の博士後期課程です。そこで養成されるのは単に優れた研究能力を有する研究者ではなく、保健医療の分野を大きく変革していける実践的な管理者や指導者です。今日保健医療の分野においても、急速に変動発展する国際社会と科学技術に対応するためには変革を先導し管理できる人材（Change Agent）の養成が急務だと言われています。そのような人材には、新規の問題に対する科学的な分析力、科学的根拠に基づいて提示・評価できる能力に加えて、問題解決に不可欠なリーダーシップ、マネージメント能力、コミュニケーション能力など実践面の能力（Competency）が必要とされます。博士後期課程ではこれらの能力を身に付け保健医療システムの変革に寄与できる人材の育成を目指した指導を行います。また、公衆衛生学専門職学位（Master of Public Health）保有者以外の入学生も広く受け入れます。そこで、専門職学位課程との接続性を担保するために、上述した5分野の共通科目と分野別（「疫学・生物統計学分野」、「産業保健・環境保健学分野」、「保健政策・医療管理学分野」）の専門科目を設けています。

2011年3月の東日本大震災以降、災害への対策やレジリエンスの構築に際し、ますます公衆衛生的立場からの支援やその研究・教育の重要性が認識されています。本研究科でも被災地の実務家や研究者と協力し、大学院生を実践活動に数多く参加させ、問題解決に取り組んでまいりました。人々の生命と健康を守るための総合的な問題解決に取り組み、公衆衛生の発展に役立つ人材を育成することを本研究科は目指しています。熱き心をもった公衆衛生の実践を志す多くの方々の入学を期待しております。



帝京大学大学院公衆衛生学研究科
研究科長 山岡和枝

幅広い知識と公衆衛生マインドを身に付け
国際舞台において指導的立場で活躍できる
実践プロフェッショナルを育成

ミッション

The Mission

患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人（Professional）を養成します。



アドミッション・ポリシー

Admission policy

公衆衛生学研究科（専門職学位課程）は、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人の育成を目指しています。

公衆衛生を学ぶということは、「人々の生命と健康にかかわる公衆衛生上の諸課題に対して総合的な問題解決を実践するための幅広い知識・技術と公衆衛生マインドを身につけること」であり、そのため人々の健康に関する関心や基礎知識だけでなく学際的知識・経験、社会的問題意識や論理的考察力、ならびにリーダーシップの基礎的素養が求められます。

従って、本研究科においては、学部教育や実務経験を通じて、次のような知識・資質を備えた学生の入学を希望し選抜します。

1. 基礎的な知識・学力・実務能力を有し、更にそれらを高度化しようという意欲のある人
2. 人々の命や健康に関心を持ち、病者・弱者に共感する心のある人
3. 論理的・合理的な思考を重んじ、物事を多面的に考えようとする人
4. 様々な背景の人々と協調し連携できる柔軟性に加えて指導力・実行力をあわせ持つ人



教育課程の特徴

Key Features of the Programs

- 米国型の公衆衛生専門職大学院 (CEPH ※認定基準に準拠)
- ハーバード大学と共同で教育プログラムを開発・運営
- 地域ならびに国際的な観点における専門教育
- 現場での実践に資する高度な問題解決能力を重視
- コンピテンシー基盤型教育を導入

※ CEPH : Council on Education for Public Health
(米国の公衆衛生教育協会)



専門職学位課程の概要

At a Glance

- 専 攻：公衆衛生学
- 学 位：公衆衛生学修士（専門職）
Master of Public Health
- 修業年限：2年コース（募集人員10名）
1年コース（募集人員10名）
※ 1年コースは主に社会人を対象としたリフレッシュ
教養を目的としており、医療機関や保健医療関連の
行政機関、医薬品産業等における実務経験者を対象
としている。



コースワーク

Main Coursework

- 統括産業医 / 労働衛生コンサルタント養成コース（1年）
- 産業保健師養成コース（1年）
- 臨床試験統括責任医師養成コース（1年）
- 生物統計専門家養成コース（2年 / 1年）
- 臨床試験看護師養成コース（2年 / 1年）
- 病院事務長養成コース（2年 / 1年）
- コメディカル部門管理者養成コース（2年 / 1年）
- 国際保健専門家養成コース（2年 / 1年）
- 保健行政専門家養成コース（2年 / 1年）
- NGO・NPO等の専門職養成コース（2年 / 1年）、他



カリキュラム概要

Curriculum Overview

疫学

生物統計学

社会行動科学／緩和医療学

保健行政学／国際保健学

医療管理学／地域保健学

環境保健学

産業保健学

疫学

Epidemiology

近年の医療において常にその重要性が指摘される EBM : Evidence Based Medicine (根拠に基づく医療) は、臨床疫学から派生したものであり、過去の疫学的研究等の成果を体系的に利用することで現在の医療行為を評価し、より適切な医療を指向するための技法である。すなわち、適切な医療を目指すためには EBM の技法を用いることが極めて有益であると同時に、一方で EBM を賢明に使いこなすためには土台である臨床疫学の深く幅広い理解が不可欠であると言える。また、医療に関連した知見が証拠 (エビデンス) となるためには、発生した結果として示されることが必要であり、またそれが偶然の結果ではないことを示すためには、集団における結果として示されることが必須である。加えて倫理面での考慮が必要な人間集団での結果の解析による証拠の提示においては、データの収集や解釈における専門家としての高度な技能および正当な注意が求められる。このことは実に疫学の方法論そのものを理論的かつ実践的に学ぶことの重要性を示しており、疫学の専門家のみでなく、公衆衛生に関わるすべての専門領域において基本的な対象認識と問題解決の基礎理論として重要な科目である。

理論講義 : 疫学概論、臨床疫学概論、質的研究、ハーバード特別講義 (疫学)

演習 : 疫学演習、臨床疫学演習、スタディクリティーク

教員

矢野 榮二 教授 (MD, MPH, DMSc)

福田 吉治 教授 (MD, PhD)

野村 恭子 准教授 (MD, MPH, DMSc)

高橋 謙造 准教授 (MD, MHS, PhD)

桑原 恵介 助教 (PhD)

Kenneth Rothman 客員教授 (DMD, DPH)

Julie Buring 客員教授 (DSc)

大脇 和浩 客員准教授 (MD, DMSc)

高木 廣文 非常勤講師 (PhD)

生物統計学

Biostatistics

厚生労働省が発表した平成 15 年度重点新規施策「治験活性化プロジェクト」においても指摘があるように、わが国において生物統計学の専門家は圧倒的に不足している。また、臨床試験の実効性を担保するための臨床試験統括医師や臨床試験看護師についても国際的なレベルからは十分な人材が確保できているとは言えない。臨床試験の実効性を担保するため、専門的な統計手法を駆使し試験計画を立案し試験結果を科学的に解析・評価できる知識と技術、ならびに新薬の承認に関する規制や手続においてガイドラインを遵守しながら臨床試験を統括できる知識と技術、さらには計画書作成や実施運用の面から積極的に支援できる知識と技術を習得する。

理論講義 : 基礎生物統計学、応用生物統計学、臨床試験概論、ハーバード特別講義 (生物統計学)

演習 : 基礎生物統計学演習、データ解析演習、臨床試験演習

教員

山岡 和枝 教授 (DMSc)

松浦 正明 教授 (PhD)

内田 俊也 教授 (MD, PhD)

江口 研二 教授 (MD)

根本 明日香 講師 (MS, ME)

Marcello Pagano 客員教授 (PhD)

Nan Laird 客員教授 (PhD)

丹後 俊郎 客員教授 (PhD)

長谷川 貴大 非常勤講師 (MS, DPH)

社会行動科学／緩和医療学

Social Behavior Science / Palliative Care

近年、医療現場における患者を中心とするコミュニケーションの問題に起因する公衆衛生上の課題は増加の一途を辿っている。これに対処するため、医師が診察で患者との関係を築く上でのコミュニケーション能力や、行動科学理論に基づく科学的な判断・指導のための専門的かつ実践的な技術を習得する。同時に、ヘルスプロモーション（＝健康増進：人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス）といった、個人の生活行動のみでなく環境整備の双方で相乗効果をもたらすアプローチ手法についての体系的な理解も深める。

理論講義：健康行動科学概論、健康教育学、医療コミュニケーション学、社会疫学
・公衆衛生倫理学、ハーバード特別講義（行動科学）

演習・実習：健康行動科学演習、終末期医療実習

教員

中尾 睦宏 教授 (MD, MPH, PhD)

福田 吉治 教授 (MD, PhD)

竹内 武昭 講師 (MD, MPH, PhD)

井上 まり子 講師 (MPH, PhD)

Ichiro Kawachi 客員教授 (MD, PhD)

石川 ひろの 非常勤講師 (MS, DPH, PhD)

川越 厚 非常勤講師 (MD, DMSc)

瀧本 禎之 非常勤講師 (MD, DMSc)

保健行政学／国際保健学

Health Policy Management / Global Health

近年の自然環境や社会環境の急激な変化に伴って、新型インフルエンザなど新たに顕在化している公衆衛生上の課題は増加かつ複雑化の傾向にあり、保健政策を科学的に判断・立案・実行できる保健行政の専門家や第一線の実務者の必要性が益々高まっている。具体的には、健康危機管理などの緊急時において疫学上の迅速判断・対応ができる、また予防対策においては的確なエビデンスを選択・吟味し適切な健康情報や予防医療の考え方を提示できる高度専門職業人が求められている。従って、保健医療政策・公衆衛生活動・予防医学実践への適用にあたって必要とされる EBM の基本的手続きに沿った合理的で高い効果を上げるための専門的な知識と技術を習得する。同時に、近年のグローバルな社会構造や疾病構造の急激な変化に伴って発生している新たな公衆衛生上の課題に対して、早急に対応できる専門的能力を習得する。これは特に国際社会から強く求められている能力である。具体的には、国際医療協力の実務における、政策デザイン、行動計画立案、ならびにその遂行まで指導的立場で効果的に推進できる能力である。さらに、わが国では超高齢社会の進展に伴って医療費が増加の一途をたどる中、医療の質を一定に保ちながら効率化を図るというトレードオフの課題に直面している。このような困難な状況下で個々の患者の方針を検討する際に必要となる医療制度の深い知識や医療経済学の方法論についても学ぶ。

理論講義：保健医療政策概論、医療保障政策論、国際保健概論、ハーバード特別講義（保健医療政策学）

演習・実習：国際保健学演習、国際保健実習

教員

山本 秀樹 教授 (MD, MPH, PhD)

井口 直樹 教授 (BEd)

高橋 謙造 准教授 (MD, MHD, PhD)

井上 まり子 講師 (MPH, PhD)

Norman Daniels 客員教授 (PhD)

橋本 英樹 非常勤講師 (MD, DPH, DMSc)

渋谷 健司 非常勤講師 (MD, DPH)

田宮 菜奈子 非常勤講師 (MD, MPH, DMSc)

医療管理学／地域保健学

Healthcare Management / Community Health

医療システムのあり方とその管理をめぐる問題に対して、地域を含めた医療体制、医療経営、医療安全、医療の情報化といった視点からの変革とリスクマネジメントの重要性が高まっている。例えば、医療構造が複雑化する今日においては、各医療機関で病院評価の基準をクリアするためには医療体制の再構築と科学的経営手法が必要となり、そこでは病院経営のプロフェッショナルが求められる。また、医療の質を向上させるためには、経営効率化や地域医療を含めた業務連携の標準化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められるが、これを実現するための組織管理・情報基盤を設計・管理できる専門的な人材が必要となる。このような高度専門職業人に必要となる知識と技能について学ぶ。

理論講義：医療管理学・安全管理学概論、医療経済学、医療情報学概論、地域保健学、リーダーシップマネジメント論
演習・実習：医療経営学演習、医療情報学演習、医療管理学実習、地域保健学実習

教員

中田 善規 教授 (MD, MBA, PhD)
高橋 謙造 准教授 (MD, MHS, PhD)
顧 艶紅 講師 (MS, PhD)
山村 朋子 助手 (MSLIS)
David Hunter 客員教授 (PhD, MA, FRCP)

石崎 達郎 非常勤講師 (MD, MPH, DMSc)
小林 廉毅 非常勤講師 (MD, DMSc)
成松 宏人 非常勤講師 (MD, DMSc)
武藤 真祐 非常勤講師 (MD, PhD, MBA)
小林 潤 非常勤講師 (MD, PhD)
中澤 達 非常勤講師 (MD, PhD)

産業保健学

Occupational Health

産業保健については国全体の疾病構造が大きく転換するとともに中高年労働者が増加してきた結果、職域においては感染症に変わって循環器疾患やがんがより大きな問題になってきた。現代における化学プラントや建築現場などの職域で発生する健康障害に対しては、業務起因性の判断といった疫学的検討が求められる。

また技術革新、産業構造の変化にともなう作業様態の多様化、心理的ストレスの増大などが無視できない状況となってきている。自殺の原因となる、うつ病では多くの患者が疲れ、不眠以外に、吐き気、動悸といった身体症状を訴え、重症になるケースも多い。逆に体の病気でも心の問題、ストレスで症状を悪化させたり発症を誘発したりする。治療、予防のためには患者の心身両面から状態を把握する必要がある。

このような状況に対して、現場で中心となって活動するのは産業医であるが、独立的に実務に対応できるだけの系統的養成が不十分であるのが現状である。従って、産業保健医として要求される関連法規や制度、ならびに衛生管理組織などでの実務運営のための専門知識と管理能力に加えて、メンタルヘルスについては科学的根拠に基づく有効な予防法についても学ぶ。

理論講義：産業環境保健学概論、産業保健学、産業中毒学、ハーバード特別講義（産業保健学）
演習・実習：産業環境保健学実習

教員

原 邦夫 教授 (MS, PhD)
矢野 榮二 教授 (MD, MPH, DMSc)
宮川 宗之 教授 (DMSc)
Peter Baxter 客員教授 (MD, MSc, FRCP, FFOM)

小木 和孝 客員教授 (MD, DMSc)
吉川 徹 客員准教授 (MD)
橋本 晴男 非常勤講師 (MS, MPH)
東川 麻子 非常勤講師 (MD, DMSc)
杉澤 誠祐 非常勤講師 (MD)

環境保健学

Environmental Health

環境保健学は、「人間の健康に環境が及ぼす影響」についての学問であり、大気汚染などの環境有害物質から騒音や気温など物理的環境を対象とするが、今日では温暖化現象など地球規模の環境問題とその対策についても取り扱うようになっている。そのため、有害物質による生体影響の同定や環境防御対策について特定の地域集団だけでなく国際的な枠組みで環境保健対策を計画・実行できるための知識と技能を習得する。

理論講義：産業環境保健学概論、環境保健学、ハーバード特別講義（環境保健学）
演習・実習：産業環境保健学実習

教員

原 邦夫 教授 (MS, PhD)
矢野 榮二 教授 (MD, MPH, DMSc)

Douglas Dockery 客員教授 (MS, ScD)
神山 宣彦 非常勤講師 (PhD)

研究と実践のバランスと国際通用性に主眼を置き

グローバルに活躍できる将来の上級管理職（Director）と

次世代の公衆衛生高等教育を担う上級指導者を養成

ミッション

The Mission

公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力に加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者（Change Agent）の養成を目的とします。



アドミッション・ポリシー

Admission policy

公衆衛生学研究科（博士後期課程）は、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するという基本理念を実現するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができると同時にその活動を統括指導できる上級管理者・上級指導者を養成することを基本理念としています。従って、その養成課程にふさわしい、次のような学生の入学を希望し選抜します。

1. 研究者あるいは実務者として一定の知識・学力・能力を有し、さらにそれらを発展させ、今後の教育・指導に役立てようという意欲のある人
2. 人々の命や健康や社会の安寧に関心を持ち、病者・弱者に共感する心のある人
3. 科学的な思考ができ、問題解決のために分析的に判断・対処しようとする人
4. 公衆衛生の実践に資するだけの指導力・実行力の向上が期待できる人

教育課程の特徴

Characteristics of the curriculum

- 従来の真理探究型研究に偏重するのではなく、公衆衛生分野における問題解決に特化した高度専門能力を養成
- 研究論文の指導に加えて、公衆衛生実務上の問題解決に求められるリーダーシップ、マネジメント能力の涵養も重視
- 専門職学位課程との接続性を担保するために、共通科目（公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ）および選択した専門分野に指定科目を設定
- 海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、ハーバード大学をはじめとする欧米の公衆衛生大学院の教授による講義を導入
- 海外からの留学生の受け入れを積極的に行い、多国籍な教育環境を提供するため、国際標準のカリキュラム編成を行うとともに英語による授業を一部導入
- 連携大学院による他機関との連携協力を図り、全体としての教育研究の水準の向上を目指す運営

博士後期課程の概要

At a Glance

- 専攻：公衆衛生学
- 学位：博士（公衆衛生学）/Doctor of Public Health
- 修業年限：3年
- 募集人員：6名
- 養成分野：疫学・生物統計学分野
産業保健・環境保健学分野
保健政策・医療管理学分野（国際保健学含む）
- 受験資格：修士の学位または専門職学位を有する者
※ 経営学修士（MBA）や公共政策修士（MPP）等の非医療系出身者も含む。



カリキュラム

Curriculum

● 専門科目（疫学・生物統計学分野）（※ 1）

- 疫学・生物統計学特殊研究（研究指導）
- 疫学特論Ⅰ（臨床疫学）
- 疫学特論Ⅱ（理論と方法）
- 疫学特論Ⅲ（疫学研究の展開）
- 疫学特論Ⅳ（行動科学・社会疫学）
- 生物統計学特論Ⅰ（生物統計学応用）
- 生物統計学特論Ⅱ（統計モデル）
- 生物統計学特論Ⅲ（生物統計学の展開）
- データ解析演習
- 臨床試験特論

● 専門科目（保健政策・医療管理学分野）（※ 1）

- 保健政策・医療管理学特殊研究（研究指導）
- 保健政策学特論Ⅰ
- 保健政策学特論Ⅱ
- 医療経済学特論
- 医療管理学特論
- 地域医療学特論
- 国際保健学特論

● 専門科目（産業保健・環境保健学分野）（※ 1）

- 産業・環境保健学特殊研究（研究指導）
- 産業・環境医学特論
- 産業保健学特論
- 産業・環境工学特論
- 公害特論
- 地球環境・災害科学特論
- 産業・環境保健学特論

● 共通科目

- リスク科学特論（医療判断学を含む）
- 組織管理学特論
- 公衆衛生倫理学特論
- 公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ（※ 2）
- 医学基礎・臨床医学特論（※ 2）

（※ 1）3つのうち1つの専門分野を選択

（※ 2）非医療系出身者のための科目

研究指導教員一覧

山岡 和枝 教授（研究科長）	医学博士	疫学・生物統計学担当
中尾 睦宏 教授	医学博士、米国 MPH	疫学（社会疫学）担当
中田 善規 教授	博士（医学）、米国 MBA	医療管理学担当
原 邦夫 教授	博士（医学）	産業保健・環境保健学担当
福田 吉治 教授	医学博士	疫学・産業保健学・国際保健学担当
松浦 正明 教授	博士（医学）	疫学・生物統計学担当
矢野 榮二 教授	医学博士、米国 MPH	産業保健・環境保健学担当
高橋 謙造 准教授	国際保健学修士、医学博士	保健政策学担当
井上 まり子 講師	博士（医学）、米国 MPH	保健政策学（国際保健）担当

この他、研究指導補助教員が各分野に配置されます。

ハーバード大学との連携

Joint Programs with Harvard University

年2回開催される国際シンポジウム（Teikyo-Harvard Symposium）に加えて、毎年1月には公衆衛生教育の国際基準である必修5分野について、ハーバード大学等の教授陣が各科目8コマ、合計40コマの講義を行う（Harvard Special Session）。同大学の通常科目のダイジェスト版ともいえる本講義で取得された単位は、帝京大学とハーバード大学の教授陣が共同認定しており、国際的な評価に資するものである。コース修了者に対しては、正式な修了証が発行される。



また本講義開催期間には、ハーバード公衆衛生大学院の学生が帝京大学を訪問し（Harvard Japan Trip）、様々な国籍の大学院生同士で交流プログラムも行われる。

Harvard Special Session 2015

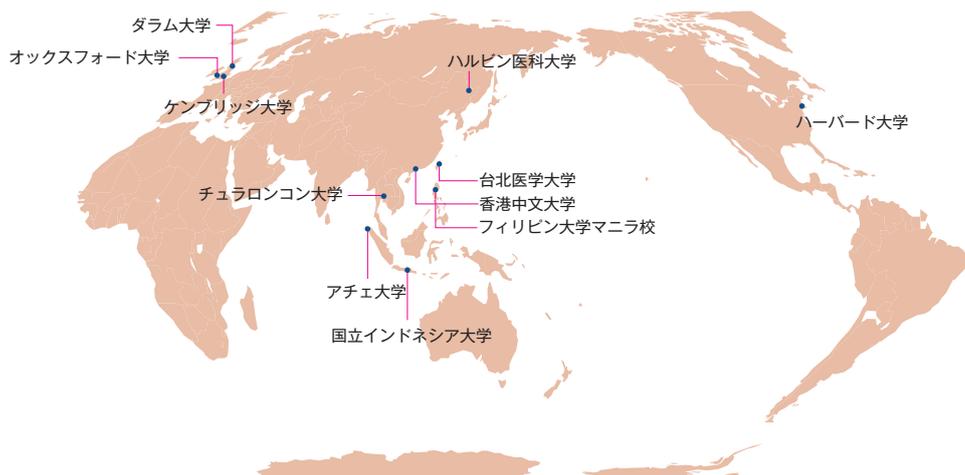
開講科目	担当教員	単位数
Epidemiology	Martin Burton/ Andrew Farmery	1
Biostatistics	Marcello Pagano	1
Behavioral Science/Social Epidemiology	Ichiro Kawachi	1
Health Policy and Management	Martin Burton/ Andrew Farmery	1
Introduction to Occupational Medicine	David Christiani	1

世界に広がるネットワーク

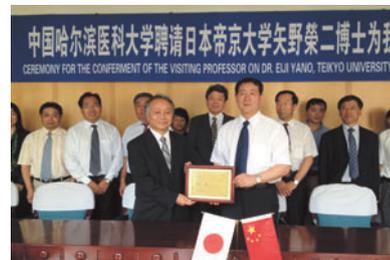
Global Academic Partnership

帝京大学はハーバード大学等の米英大学との連携を機軸として、グローバルな視点で活躍する公衆衛生専門家の養成と共に、APACPH加盟校としてアジア太平洋地域の公衆衛生専門家のネットワーク形成に積極的に取り組んでいる。

具体的には、教員・学生の国際交流を通じて、公衆衛生学の研究・教育、ならびに実践の中心的な発信拠点となり、主にアジア地域で生じている地球規模の課題を各国の専門家と共同で解決できるグローバル人材養成のための主導的役割を果たすことを目指している。



※ APACPH : Asia Pacific Academic Consortium for Public Health



交通アクセス

Access Map



最寄り駅から板橋キャンパスまでの所要時間

JR 埼京線「十条駅」より …… 徒歩約 10 分

都営三田線「板橋本町駅」より …… 徒歩約 12 分

主要駅から十条駅までの所要時間

池袋から …… JR 埼京線で約 5 分

新宿から …… JR 埼京線で約 10 分

渋谷から …… JR 埼京線で約 16 分

品川・浜松町から …… JR 山手線にて大崎 (乗り換え)
+ JR 埼京線で約 35 分

大宮から …… JR 埼京線快速で約 21 分

八王子から …… JR 中央線中央特快にて新宿 (乗り換え)
+ JR 埼京線で約 60 分

横浜から …… JR 湘南新宿ラインにて池袋 (乗り換え)
+ JR 埼京線で約 50 分

千葉から …… JR 総武線にて新宿 (乗り換え)
+ JR 埼京線で約 90 分

お問い合わせ先

Further Information

帝京大学板橋キャンパス事務部 教務課大学院担当 (公衆衛生学研究科)

〒 173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL 03-3964-3294 (直通)

FAX 03-3964-8396

E-mail tsphgakui@teikyo-u.ac.jp

URL http://www.teikyo-u.ac.jp/graduate_school/sph/

